

重要イカ類の資源評価と漁況予測に関する研究

(水産資源調査・評価推進委託事業 (我が国周辺水産資源))

山根広途

1. 目的

本県のいか釣り漁業や底びき網漁業の重要な漁獲対象であるイカ類の資源状況について漁獲統計調査、市場調査により把握し、科学的評価を行う。また、イカ類資源の適切な保全と合理的かつ持続的利用を図るための提言やイカ類の漁獲状況や漁況予測に関する情報提供を行う。

2. 方法

イカ類3種(スルメイカ、ケンサキイカ、ヤリイカ)の漁獲統計資料の収集を行い、漁獲動向を把握した。スルメイカについては、試験船「島根丸」により改良型ノルパックネット(Nytral 52GG;0.335mm)を用いて稚仔分布調査を実施した。これらの調査結果をもとに(国研)水産研究・教育機構 水産資源研究所(以下、水産機構資源研)および関係府県の水産研究機関と協力して魚種別の資源評価を行い、ABC(生物学的許容漁獲量)の推定を行うほか、スルメイカの漁況予測を行った。秋季のいか釣り漁業におけるケンサキイカの漁況予測は本県単独で行った。また、5県(長崎県、佐賀県、福岡県、山口県および鳥取県)と共同で各地におけるケンサキイカの漁況を取りまとめた。なお、毎年度実施してきたケンサキイカの精密測定は、2024(令和6)年度は実施することができなかった。

3. 結果

(1) 漁獲統計調査

イカ類3種については、漁業種類別漁獲量を集計した。本調査から得られたイカ類の漁獲動向については、「2024(令和6)年の漁況」として後述した。また、5県(長崎県、佐賀県、福岡県、山口県および鳥取県)と協力して各地のケンサキイカ漁況を取りまとめ、「トビウオ通信漁況速報 ケンサキイカ情報」令和6年度第1号~第8号として漁業関係者向けに公表した。

(2) 稚仔分布調査

スルメイカ稚仔を対象として、加入量水準を推定する資料とするため、9月25日~26日、10月24~25日の2航海において計10地点で実施した(10月は4点欠測)。結果は添付資料「2024年度卵稚仔調

査結果」を参照のこと。

(3) 漁況予測

水産機構資源研および関係各府県の水産研究機関と共同で検討し、「2024年度日本海スルメイカ長期漁況予報」を2024年7月に公表した(島根県版は「トビウオ通信」令和6年第6号として公表)。なお、日本海スルメイカ長期漁況予報は例年2回(4月、7月)公表されるが、2024年度は7月の公表のみであった。

秋季(9月~12月)のいか釣り漁業におけるケンサキイカ漁況を予測し、2024年9月に「トビウオ通信」令和6年第8号として公表した。内容は、出雲、石見、隠岐のいずれの地区も「前年を下回る」漁況と予測した。実際に、2024年秋季における1日1隻当たり漁獲量(CPUE:kg)は全地区とも前年を下回った(図1)。

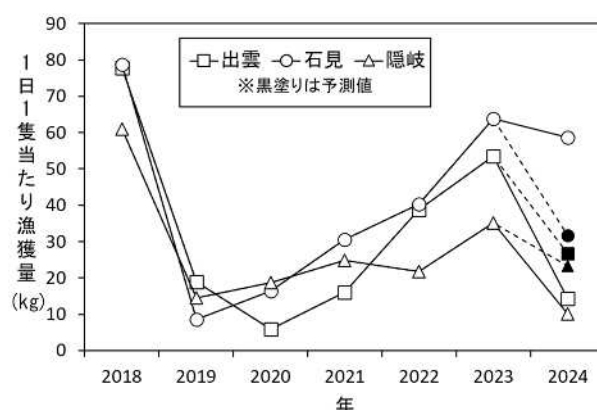


図1 各地区における秋季(9月~12月)のいか釣り漁業(30トン未満船)のケンサキイカの1日1隻当たり漁獲量(CPUE)(白塗り:集計値、黒塗り:予測値、(出雲・石見は属地、隠岐は属人集計))

4. 成果

調査結果はスルメイカ秋季発生系群、ケンサキイカ日本海・東シナ海系群およびヤリイカ日本海系群の資源評価に活用された。スルメイカ秋季発生系群においては、研究結果から推定されたABCを基にTAC(漁獲可能量)が設定された。